



1636年～1869年(約230年)

伊予西條藩を知る ②

(第一次西條藩)一柳家、(第二次西條藩)松平家

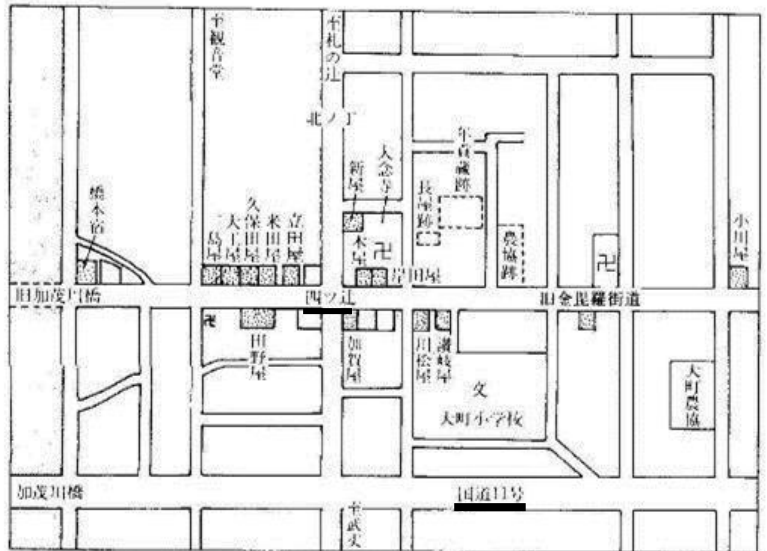


大町「四ツ辻」

西条市に鉄道(JR)や国道11号線が出来るまで西条南部の中心だった大町の集落は街村をなし、**讃岐街道**と西条祭りの「**だんじり通り**」が交差する **大町『四ツ辻』**(現・森川屋の交差点)を中心に

して、宿場町として金毘羅参詣者や四国霊場巡拝のお遍路さんの往来で大変賑わった。

かつてはこの**四ツ辻**を中心にして、東西に旅籠(はたご)や木賃(きちん)宿が沢山並んでいた。加茂川の橋のたもと、うどん屋を兼ねた「**橋本屋**」から四ツ辻を挟んで、現在のJAえひめ未来大町支所近くにあったという「**小川屋**」まで**14**軒もの宿が、ほぼ讃岐街道沿いに並んでいた。中でも、川原町バス停前の矢野製材所に建っていたという街道中でも屈指の有名宿で、



西条市大町の旧宿場

注) 実際の道路の向きはこの通りではない

資料：石井武司「大町よいとこ」(昭和52年)による

規模も優れた高級旅籠「**田野屋**」(第4代国鉄総裁・元西条市長の十河信二が、旧制西條中学時代下宿していた)をはじめ四ツ辻近くにあった「**立田屋**(のち国安屋)」は、芸妓(げいぎ)などが出入りし、三味線の音が昼間から聞かれたと言う。地藏堂前の「**三島屋**」、街道筋の「**米田屋**」「**岸田屋**」「**新屋**」などは木賃の安い宿として、多くの遍路や山間部の人たちで賑わっていました。これらの宿はほとんど昭和**10**年代前半に廃業したが、一部は終戦前後の混乱期に廃業している。

この大町地区も町の盛衰に、交通の発達が直接かかわっている。以前は、大念寺入口の「**岸田屋**」前には馬車場があり馬車が往来し、賑やかな町であった。大町小学校入口の「**讃岐屋**」、善恵川沿いに「**川松屋**」、四ツ辻角に「**加賀屋**」があった。「**新屋**」は商人宿であった。夜毎宿には提灯がともされ、酒屋「**大蔵屋**」の提灯も夜遅くまで、あかあかと灯っていた。

大正**10**年(1921年)頃、西条に国鉄(JR)が開通したので馬車が廃止された。馬車に代わって外国車を改造したバスが登場したが、交通の変遷は人の流れを一変させてしまった。さらに、やや南に国道**11**号線が開通し、旧大町界隈(わい)の繁栄は完全に消えていくことになった。